

教学半也

令和8年7月10日

No.7

全ての読者対象

第1回外国につながる子ども支援充実研修会 「この集団にいて、なんだかできそうな気がする！」を目指して

“日本では、私は普通の子ではなくなった”

研修で視聴した、中央研修の伝達動画の冒頭はこの言葉から始まりました。日本で学ぶ、外国にルーツがある子どもが発した言葉です。近年、日本で学ぶ外国につながるのある子どもたちは増加の一途をたどっています。一人一人がもつ背景は様々ですが、このような思いを抱えて学校生活を過ごしている子どもも少なくないのではないのでしょうか。

今回の研修では、「インクルーシブな空間づくり」として、「教師と児童生徒の垂直的な信頼関係」「児童生徒同士の水平的な共感関係」を築いていくことが大切であることを再確認しました。また、一人一人のもつ「強み」を活かした「ストロングアプローチ」を実践している学校の様子も聞きました。冒頭のような言葉ではなく、「この集団にいて、なんだかできそうな気がする！」と発する子どもの姿と出会えるよう、支援をしていきましょう。



他にも高校教育課より、高校進学に関する情報提供や長野県国際化協会（ANPI）より事業内容についての情報提供が行われました。また、日本語指導に有効な教材についても展示していただき、手に取りながら「使ってみたい」と話す参加者の姿もみられました。

【参加者の感想より】

ストロングアプローチが心に響きました。どんな子どもにも強みがあるはず。おもいきりほめて強みを伸ばし、自己効力感、そして集団効力感を高められるようなかわりを心掛けたいと思います。

「いちばんうれしいのは在籍学級でみんなの前で担任の先生にほめられること」という言葉が印象的でした。担任の先生方と共有したいと思いました。

動画を通して、自身は外国人児童に対して、何を願ってかわってたのかを振り返ることが出来た。もちろん日本語の習得の支えとなることは前提としながら、本人の願いや保護者の願いを置き去りにすることがないようにしたい。

【お知らせ】

「第2回外国につながる子ども支援充実研修会」は、11月19日（木）諏訪市立中洲小学校で開催されます。10月中旬に要項を各校に送付いたしますので、ご確認の上、申し込みをお願いします。なお、外国人児童生徒等支援担当や学級担任等の県費負担教員は悉皆になります。